

1 年 国 語 科 学 習 指 導 案

1. 日 時 令和6年11月6日(水) 第5時限 (13:35~14:20)

2. 学年・組 1年〇組(在籍〇名)

3. 単 元 名 「いろいろなふね」

教材(「いろいろなふね」 東京書籍)

4. 単元の関連と系統

前単元(6月)	本単元(11月)	次単元(1月)
<p>「どうやって身をまもるのかな」 ○事柄の順序に気を付けて、大事な語や文を考えながら読むことができる。</p>	<p>せつめいのぶんしょうを読もう 「いろいろなふね」 ○知りたいことに関係のある言葉に注意して読み、いろいろな船の役目と造りを考えることができる。</p>	<p>ちがいを考えよう 「子どもをまもるどうぶつたち」 ○動物たちの子どもの守り方の違いを、比べて考えることができる。</p>

5. 学習目標

- 「いろいろなふね」の役目と造りを読み取り、分かったことをまとめることができる。
- ・共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。
- ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
- ・進んで文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめようとしている。

6. 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>・共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。</p>	<p>・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p>	<p>・学習の見通しをもって、積極的に文章の中の重要な語や文を選び出し、読んで分かったことをまとめようとしている。</p>

7. 指導にあたって

(児童観)

本学級の児童は、入学してからこれまで、国語科や図書の授業を通してまとまった文章が読めるようになってきた。教科書を音読するときには児童によって読む速さに差があったが、言葉のまとまりや句読点を意識して読むことを毎日繰り返し行うことで、一斉読みをする時に声がそろうようになってきた。図書の授業では、本を読んで分かったことやおもしろかったことを「これ読んでみて。」と友達に楽しそうに伝えている様子が見られた。

学習においては自分の事を伝えたい気持ちが大きく、一方的に話してしまう児童もいる。そのため、友達の話聞くときには「聞き方あいうえお」を提示することで、うなずきながら終わりまで聞くことを少しずつ意識できるようになってきている。

ひらがなの学習では、言葉だけでなく文章を速く正確に書くことができる児童が増えてきた。カタカナについては、「どうやって書くの。」などと教師に尋ねる児童もおり、教室にカタカナ表を掲示しいつでも確認できるよ

うにしている。1学期に板書をノートに写す時は、1文字ずつ見て書く児童が多く時間がかかっていたが、2学期に入り、言葉のまとまりを意識してノートに書くことができる児童が増えてきた。

1学期に初めて学習した説明文「どうやってみをまもるのかな」では、動物ごとに大事な言葉や文に注目して読むことを学習した。動物の特徴的な身の守り方について書かれた文章を、挿絵を見ながら興味を持って楽しそうに読む姿が見られた。そして、動物の名前や体の特徴、身の守り方を本文から抜き出し、ノートにまとめる活動を行ってきた。教師が動物の名前やその動物がどのように身を守るのかを問いかけると、多くの児童は文章に書かれていることや挿絵をもとにして、ノートに抜き出して書くことができていた。しかし、文章の内容を正確に読み取れず、文章中の重要な語や文を正しく選び出して書くことができない児童もいた。

(単元観)

本教材「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持った4種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などについて説明した文章である。乗り物という教材は児童にとって身近なものであることから、興味や関心をもって学習に取り組むことができると考える。しかし、自動車や電車などと比べると、本教材の題材である船は、どちらかというとな馴染みが薄く、日常的には利用しない乗り物である。だからこそ、初めて知ることも多く、いろいろな船の役目や造りについて好奇心を持って読み進めることが期待できる。また、始め（話題提示）、中（4種類の船の例示）、終わり（まとめ）の構成がはっきりしており、説明的文章の基本的な構造を学ぶことに適している。

本文は4種類の船の例示が役目造りの2観点による同じ文章構成で説明されている。役目は「～ための」、造りは「～があります」「～をつんでいます」と同じような文型で書かれているため、最初の読み取りを次の読み取りに活かすことができ、児童が大事な言葉を見つけやすい構成となっている。そのため、書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取る学習に適している。また、それぞれの船について書かれた文章と共に写真が大きく載っており、文章の内容を理解しやすい教材である。

(指導観)

本単元では、「説明的な文章を読み、分かったことをまとめて伝え合う」という言語活動を設定した。文章の中から役目造りに関する重要な語や文を選び出したり、両者を関連づけながら考えたりすることで、説明文を読む楽しさを感じ、理解を深めるようにする。

第Ⅰ次では、乗り物について知っていることや経験したことなどを交流し、学習への意欲を高める。教材文を読み、4つの船のことがどこに書かれているかに注目し、内容の大体を読み取るようにする。最後の文章から役目造りのキーワードをおさえる。本文の構成が分かりやすくなるように、始めと終わりの文章を短冊にして教室に掲示する。そしてその日学習した文章をその間に足していくことで、学習したことを振り返られるようにする。

第Ⅱ次では、4つの船の役目と造りを考えながら文章を読み、ワークシートにまとめる学習を行っていく。音読をする際は、どんな役目や造りがあるかを考えながら読むよう伝え、内容に意識が向くようにする。第3時の客船の学習では、読んだ文章から、その船の役目、造りについて考え、みんなで確認しながら線を引くようにする。そうすることで文章の中にあるための役目に置き換えられていること、「このふねの中には…があります。」の文章が造りであることにも気づくようにする。またその後続く文章は造りの構造や装備がどのように機能しているかを説明する文章のため、これも造りに含まれることを理解できるようにする。役目と造りの関係性を理解するのが難しい児童には、両者を「だから」でつなげて分かりやすくする。4つの船について、役目と造りを考えるという同じ学習を繰り返し行うことで、自分で大切な言葉を見つけ、まとめることができるようにする。役目を見つけやすくするために、まず本文から「ため」を見つけ出し赤丸で囲むようにする。また、造りとは、その役目のために何があるのか、何をするのかであることを教室に掲示することで、自分で造りを見つけ出

することができるようにする。(方法④) 線を引いた部分について交流する際は、一方的に伝えるだけにならないようにするため、対話の話型を提示する。赤線と青線に注目させることで、船の役目や造りについて自分でまとめられるようにする。

すべての船の役目と造りをまとめ終えたら、第I次から教室に掲示してきた短冊を黒板に貼ることで、始め(話題提示)、中(4種類の船の例示)、終わり(まとめ)の文章構成を確かめるようにする。4つの船の中から自分が一番気に入った船を選び、理由も併せてワークシートにまとめるようにする。その際まとめやすくするために型を提示する。

8. 学習指導計画(全7時間)

次	時	学習活動	指導・支援・評価(◇)
I	1	○教材文や課題に興味を持ち、学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている乗り物や好きな乗り物について発表し、乗り物への関心を引き出す。 ◇教材文や課題に興味をもち、学習の見通しをもつことができる。
	2	○教材文全体を読み、内容の大体を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた船の名前やその順番を確かめることで、内容の大体を読み取るようにする。 ・始めの文と終わりの文を短冊で提示し、役目と造りの意味を理解できるようにする。 ◇教材文全体を読み、内容の大体を読み取ることができている。
II	3	○客船の役目と造りについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・役目に赤線、造りに青線を引かせることで、キーワードに気づくようにする。 ◇船の役目と造りを考えながら、文章を読むことができている。
	4	○フェリーボートの役目と造りについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリーボートの車を停めておくところの写真を用意し、内容をより理解しやすくする。 ・「ため」を赤丸で囲むことで、役目を見つけ出せるようにする。壁面掲示を使って、造りを見つけ出せるようにする。 ・赤線と青線を見ることで、船の役目や造りについて自分でまとめられるようにする。 ◇船の役目と造りを考え、まとめることができている。
	5 (本時)	○漁船の役目と造りについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・群れを見つける機械の写真を用意し、内容をより理解しやすくする。 ・「ため」を赤丸で囲むことで、役目を見つけ出せるようにする。壁面掲示を使って、造りを見つけ出せるようにする。 ・赤線と青線を見ることで、船の役目や造りにつ

			<p>いて自分でまとめられるようにする。 ◇船の役目と造りを考え,まとめることができている。</p>
6		○消防艇の役目と造りについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童になじみのある消防車を提示し,消防艇を想像しやすくする。 ・「ため」を赤丸で囲むことで,役目を見つけ出せるようにする。壁面掲示を使って,造りを見つけ出せるようにする。 ・赤線と青線を見ることで,船の役目や造りについて自分でまとめられるようにする。
7		○始め,中,終わりの文章構成を確かめ,お気に入りの船について伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・始め,中,終わりの文章構成について分かりやすくするために,短冊を提示する。 ・理由も併せてノートに書きやすくするために型を提示する。
			◇お気に入りの船についてまとめることができている。

9. 本時の学習（5／7時）

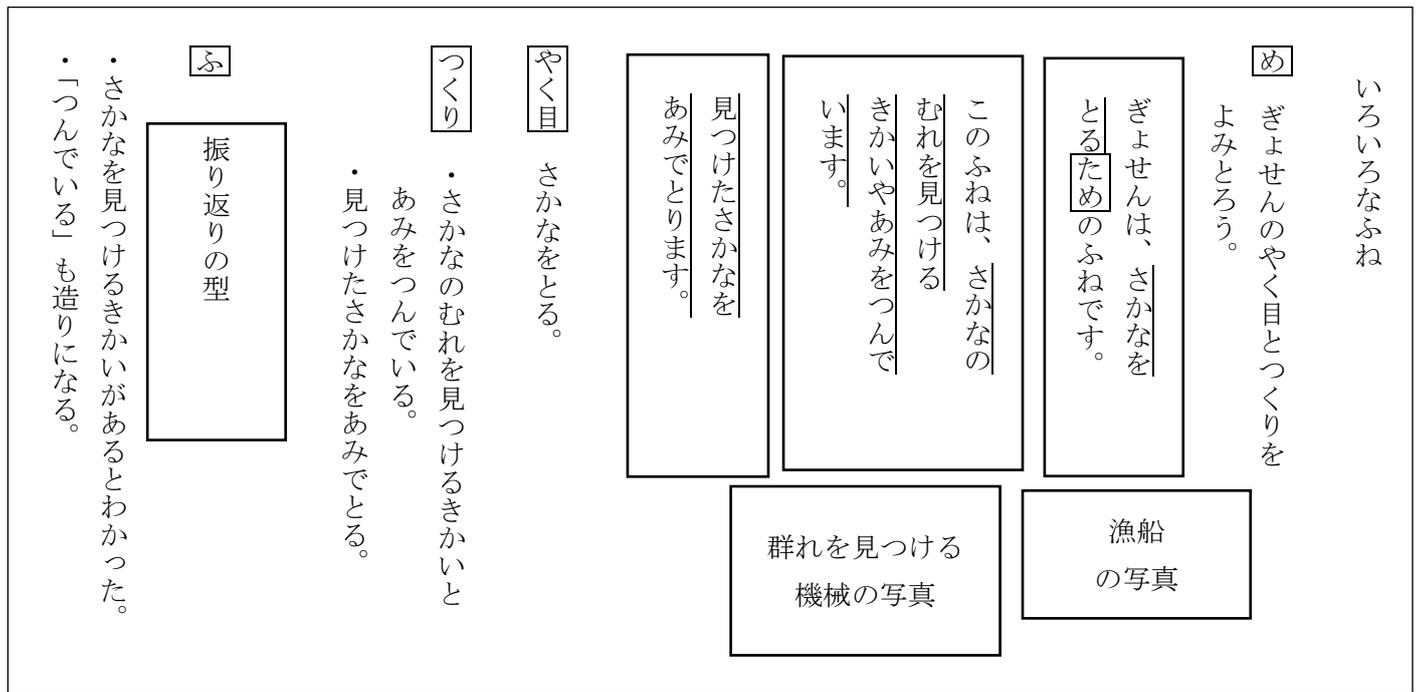
(1) 目標

- ・漁船の役目と造りを考え、まとめることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点（指導者の指導・支援）	評価規準
1. 本時の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・側面掲示を使ってこれまで学習してきた2つの船の役目造りについて振り返ることで、本時の学習の手掛かりになることに気づくようにする。 	
ぎょせんのやく目とつくりについてよみとろう。		
2. 教科書47ページを音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習や本時のめあてを確認することで、漁船の役目と造りを探しながら音読することができるようにする。 ・群れを見つける機械の写真を用意し、内容をより理解しやすくする。 	
3. 役目は赤、造りは青で線を引く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ため」を赤丸で囲むことで、役目を見つけ出せるようにする。 ・前時まで学習してきた「きゃくせん」「フェリーボート」についてまとめた側面掲示を使って、造りを見つけ出せるようにする。（方法④） ・役目と造りの関係性を理解するのが難しい児童には、両者を「だから」でつなげて分かりやすくする。 	
4. どこに線を引いたか、ペアで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流がより深まるように、対話の話型を提示する。どこに線を引いたかの確認だけでなく、なぜそこに線を引いたのか、理由も話し合うことで、重要な語や文に気づくようにする。 	
5. 全体で確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの船の説明が3つの文章で構成されていることを意識しやすくするために、1文ずつの短冊を提示し、そこに線を引きながら確認する。 	
6. 役目と造りをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・赤線と青線に注目させることで、船の役目や造りについて自分でまとめられるようにする。 	◇船の役目と造りを考え、まとめることができる。
7. 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なしともも」を活用し、学んだことを振り返るようにする。振り返りの型を提示し、ワークシートに書くことができるようにする。 	

(3) 板書計画



10. 指導を終えて（成果○と課題●）

【子どもが主体性を発揮できる授業づくり】

○本単元では、4つの船の役目と造りを読み取る学習を繰り返し行ってきた。

学習を進めていく中で大事な言葉に注目し、文章から役目と造りを見つけ出すことができるようになった。その経験が自信にもつながり、積極的な発言やつぶやきが見られるようになった。

○全文を短冊に書き、役目と造りに線を引いたり、模造紙に学習が終わった船の役目と造りをまとめたりし、壁面に掲示した。子どもたちは掲示からこれまでの学習を思い出し、どこに線を引くのか、どのようにまとめるのかを考え、主体的に取り組むことができた。

●役目と造りに線を引く活動では、なぜそこに線を引くか理由を考えるのが難しい児童もいた。学習の途中で再度掲示物を使って確認したり、ヒントカードを渡したりする等の支援があればよかった。

【協働的に学ぶ授業づくり】

○ペア交流では、話型を提示したことで、相手に分かりやすく伝えることができた。また、聞き手も話型があることで、相手が伝えたいことが分かりやすくなり、自分の考えと比べることができた。

●児童の考えにあまり差がなかったため、話し合う活動で自分の考えを広げることは難しかった。もう少し多様な意見の出る発問を考えられたらよかった。

【深い学びに繋がる授業づくり】

○児童の発言に対してどうしてそう考えたのか、根拠を尋ねたり、児童の意見が分かれた時には、どちらの意見が正しいかを学級に問いかけたりするようにした。それにより、児童が本文を読み返して根拠や理由を考えたり、自分の意見を持ったりし、より深く考えることができた。

- 次単元で自分の好きな乗り物について調べ学習をする際に、本に書かれている文章から役目と造りを見つけ出すことが難しい児童が多くいた。教科書の本文では出来ていても、資料が変わると重要な語句が分からなくなってしまうので、多様な資料を読む経験を今後増やしていく。

